

中国業務通説

横井

思うことあれこれ

その1： 戦争が 廊下の奥に 立つてみた

渡辺白泉（わたなべはくせん 1913～1969 東京都生まれ 本名は威徳・たけのり）が1939年に作った俳句。慶應義塾大学卒。大学時代に水原秋桜子に影響を受け、秋桜子が代表する句誌「馬酔木」に投句を寄せる。無季俳句を研究するなど新興俳句の一人として認められる。戦争を批判する俳句を作る。治安維持法に基づく「新興俳句弾圧事件」で執筆活動停止を命じられると、俳句作りを断つ。亡くなった後に遺品から未発表の俳句ノートが見つかり、弟子の三橋敏雄たちが白泉の句集を発行した。



自民党は太平洋戦争の戦犯、戦争指導者が作った政党だ。戦後、国民は自民党に日本の政権を委ねてきた。戦前の満州支配に関わった岸信介、大平正芳、中曽根康弘は自民党総裁、総理大臣にまで上り詰めた。いまの自民党国会議員の多くは彼らの子孫、末裔だ。戦争を望まないこと、平和を望むことと自民党を支持することは両立しないと思う。

その2： 英国は永遠の友人も持たないし、永遠の敵も持たない。英国が持つのは永遠の国益である

イギリスのパーマストン（3rd Viscount Palmerston 1784～1865）首相の言葉。日本はアメリカと軍事同盟を結んでいるので、アメリカは永遠の友人だ。日本はロシア、北朝鮮と平和条約を結んでいないので、ロシアと北朝鮮は永遠の敵だ。第2次世界大戦前、日本は1902～1923年まで世界1の帝国・イギリスと軍事同盟を結んだ。1940年に日本はナチスドイツの世界支配が実現すると思い、日独伊三国同盟を結んだ。いま日本は世界1の帝国・アメリカと軍事同盟を結んでいる。

日米安全保障条約は軍事同盟条約だ。米軍の兵士が日本の領土内で犯罪を起こしても、日本政府に裁判権はない。日本国内の米軍施設には治外法権がある。米軍の航空機は日本の領空を飛行するのに日本政府の航空管制を受けない。

今年の5月にバイデン大統領が訪日した。日本の米軍横田基地に降り立った。日本政府の主権は日本の領空でも、領土内でも大統領選専用機には及ばない。バイデン大統領の専用車が横田基地の正面ゲートを出た時点で、法律上、日本に入国したことになる。

NATO（北大西洋条約）も軍事同盟条約だ。第三国がNATO加盟国に軍事攻撃を仕掛けたら、アメリカを含む全加盟国は自動的に、無条件で参戦すると規定されている。

日米安全保障条約には第三国が日本に軍事攻撃を仕掛けたら、アメリカが自動的に、無条件で参戦するという規定はない。アメリカが参戦するには議会の同意が必要だ。同じ軍事同盟でも両者は大きく違う。アメリカは無条件で日本を防衛、軍事支援しない。

その3： 憲法とは国家権力が過去に犯した失敗のリストです。失敗をリスト化した上で、それを禁止し、これ以上繰り返さないようにしたのが憲法。過去に国家は戦争・人権侵害・独裁、3つの失敗を何度も繰り返した。憲法にはそれを繰り返さないように、人権を保障し

たり独裁を防ぐルールを盛り込まれた。それが憲法なんです。

木村 草太(1980～ 憲法学)東京都立大学法学部教授の言葉。2003年東京大学法学部卒、同年助手。東京大学法学部では優秀な学生を学部卒業後すぐに助手(学士助手)として採用し、3年間の任期中に論文(助手論文)を作成させ、研究者、教員として養成してきた。20代で助教授だ。東大法学部教授に大学院卒、博士号は必須条件でない。こうして憲法学者・宮沢俊義は35歳、政治学者・丸山眞男は36歳で東大法学部教授になった。木村草太氏は36歳で教授になった。

いま大学院で博士号を取得して雇用期限付きの組織(大学、研究所)に身を置く博士研究員をPD(Postdoctoral ポスドク)という。PDは日本学術振興会特別研究員(学振PD)に身を置くなどして、糊口をしのぎ、この間に正規教員の就職先、POST探しに奔走する。院卒、博士の就職難。自民党政権が片方で院生を増やし、片方で大学の正規教員を減らし続けた帰結だ。むかし大学は出たけれど、いま大学院は出たけれど。

自民党政権は憲法を無視し、空洞化させた。司法(検察、裁判所)は独立を放棄し、完全に自民党の支配に屈した。自民党政権は戦争への道を進み、人権侵害が進み、独裁化している。日本は過去の失敗から学ばず、同じ過ちを繰り返す道を歩んでいるように思う。



その4: 「君者舟也庶人者水也 水則載舟水則覆舟」(君は船なり、庶人は水なり 水すなわち舟を載のせ、水すなわち舟を覆くつがえす) 意味は「君は舟であり、人民は水である 水は舟を載せるが、また舟を転覆させもする。」 出典は荀子 王制篇第九

中国政府には政権幹部、中国共産党党員の不祥事、スキャンダル、汚職、腐敗が続いたら、中国共産党は政権を維持できない、政権に留まることができないという危機感がある。日本の自民党にそのような危機感はない。自由選挙の無い中国、北朝鮮で政権が交代することはない。自由選挙があっても日本は政権が交代することがない。中国のすべての組織は中国共産党の支配下にある。日本の多くの組織、団体は自民党の集票マシンに組み込まれている。いま労働者の組織・連合は資本家の政党・自民党の支持組織だ。マルクス、エンゲルスもびっくりだ。

“わが巨人軍と自民党政権は永久に不滅です”

その5: 1940年9月、山本五十六聯合艦隊司令長官は近衛文麿首相に荻窪の別荘「荻外荘」に呼ばれた。日米戦争になったときの海軍の見通しを近衛に聞かれ、山本は「それは是非やれと云われれば、初め半年か1年の間は随分暴れてご覧に入れる。然しながら、2年3年となれば、全く確信は持てぬ。」と答えた。(近衛文麿『失はれし政治——近衛文麿公の手記』)。

この会談から1年たった1941年10月16日に第2近衛内閣は総辞職し、10月18日に東条英機内閣が成立。12月8日 東条首相、山本聯合艦隊司令長官のもとに、日本は真珠湾攻撃をおこなった。日本は開戦後1年先の戦争遂行の見通しが無いまま、アメリカとの戦争を始めた。今年2月、ロシアのプーチン大統領は勝ち目のない戦争を始めた。

日本人の好きな言葉。「一か八か」(いちかばちか。結果はわからないが、運を天に任せて思い切ってやってみること。語源は丁半賭博)、「清水の舞台から飛び降りる」(思い切って大きな決断をすることのたとえ)、「何とかなる」。

しかし、多くの場合、一か八かでやっても天は味方しない、清水の舞台から飛び降りる覚悟でやっても望んだ結果は伴わない、何とかなるつもりでやっても何とかならない。